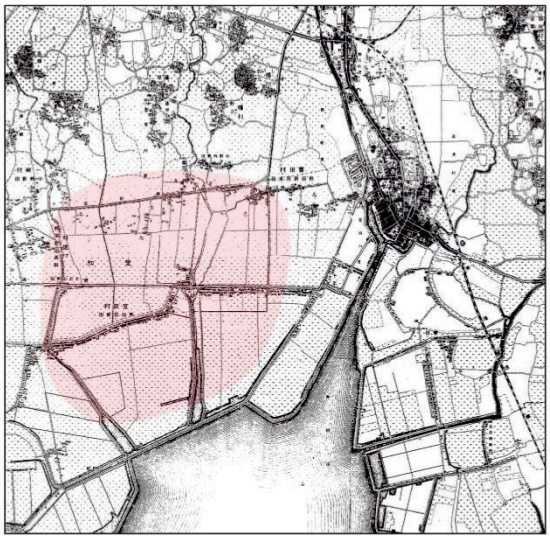
参 考 資 料

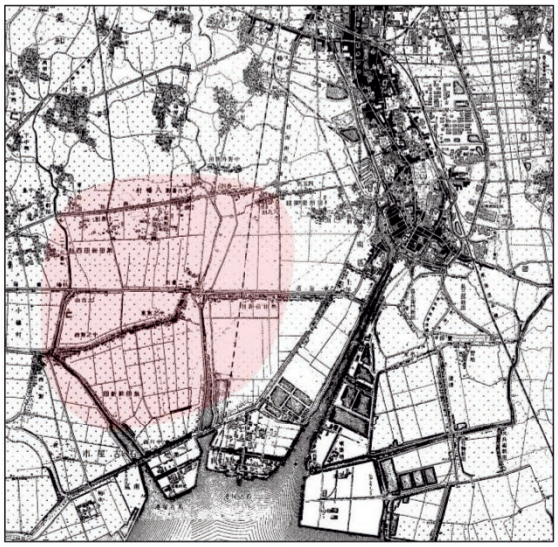
1　地域の歴史変遷

港北エリア及び周辺地域の年代別地図と歴史変遷の概要を示します。



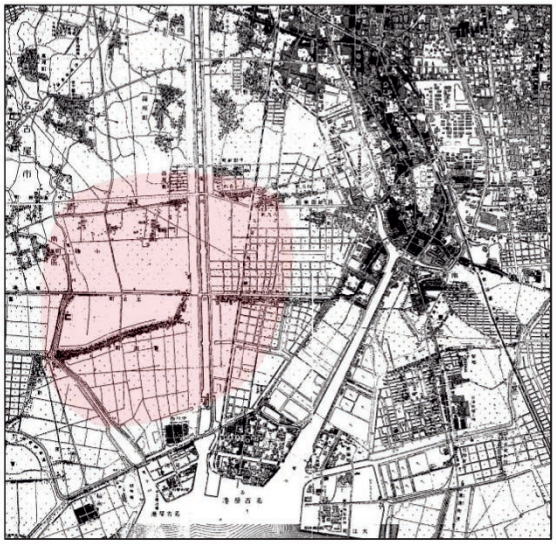
■明治 24 年

東海道鉄道の西側には又兵衛新田・源兵衛新田などの干拓新田が見られ、さらに大規模な新田は図の西部の熱田前新田が開発されています。



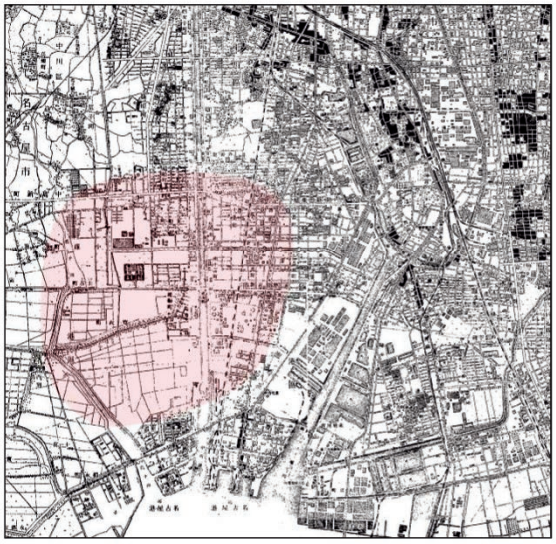
■大正 9 年

築地には名古屋駅方面から臨港鉄道引込線が敷設され、市電もすでに通じています。市電は東築地方面に敷かれ、そこには貯木場や工場もいくつか立地して、築地西部の肥料会社とともに臨港地帯らしい趣が見え始めています。しかしすぐ背後には依然として広大な干拓新田が拡がっています。



■昭和 7 年

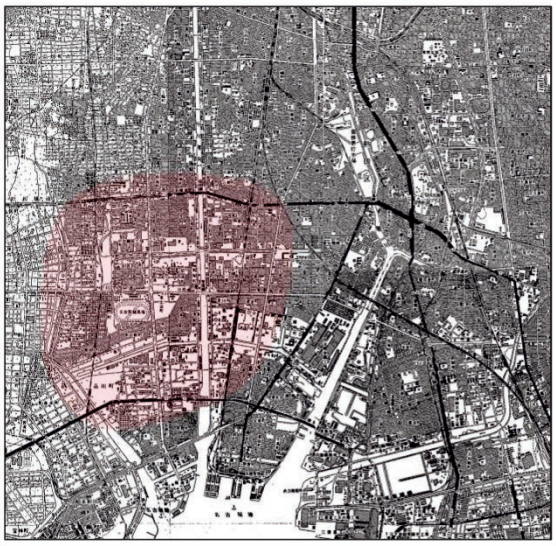
築地にはのちに 3 本の埠頭ができますが、そのうちの西埠頭がすでに姿を現しています。また、その西側の中川運河も形を整えつつあります。



■昭和 22 年

市街地の拡大にともなって名古屋市と周辺町村の合併問題が生じ、千種・御器所・中・愛知・常磐・八幡・荒子の各町村は大正 10 年（1921）に名古屋市に編入されました。

中川運河は貨物工場笹島および堀川筋の工場・倉庫群と名古屋港を結ぶ役割をもつもので、昭和 7 年（1932）に開通しました。



■昭和 43 年

東邦瓦斯・愛知機械工業（もとの愛知起業）・日本ハードボード・八幡製鉄（現、新日本製鉄）などの大工場が集積しました。名古屋競馬場が開業し、競馬場西側の市営土古町住宅・稲永住宅などが整備されています。

図出典：日本図誌大系（中部）を加工

■平成 27 年

東邦瓦斯の港明工場の跡地は、「みなとアクルス」の名称で環境と省エネの取り組みによる先進的なまちづくりをコンセプトとしたスマートタウンが開発されています。本市の「低炭素モデル地区事業」の認定第 1 号となりました。

2　上位・関連計画

港北エリアに関連する名古屋市の上位・関連計画は以下のとおりです。

（1）名古屋市総合計画 2023－世界に冠たる「NAGOYA」へ－（策定：令和元年度）

第 20 回アジア競技大会の開催とリニア中央新幹線の開業を重要な柱と位置づけ、長期的展望に立った上で、本市のめざす都市像を描くとともに、その都市像の実現に向けて取り組む施策等を明示することにより、市政を総合的かつ計画的に運営していくことを目的に策定し、この中において、港北エリアにおけるまちづくりの推進が掲げられています。

■まちづくりの方針

新しい時代にふさわしい豊かな未来を創る！世界に冠たる「ＮＡＧＯＹＡ」へ

■めざす都市像

都市像１　人権が尊重され、誰もがいきいきと暮らし活躍できるまち
都市像２　安心して子育てができ、子どもや若者が豊かに育つまち
都市像３　人が支え合い、災害に強く安心・安全に暮らせるまち
都市像４　快適な都市環境と自然が調和したまち
都市像５　魅力と活力にあふれ、世界から人や企業をひきつける、開かれたまち

■「港北エリアまちづくり」について（抜粋）

第３章　「長期的展望に立ったまちづくり」-「４　重点戦略」

- 「戦略４　強い経済力を基盤に、にぎわいと新たな価値を創出し、 環境と調和した都市機能を強化します」

○港北エリアにおけるまちづくりの推進

・選手村整備と後利用を見据えた将来ビジョンの策定
・港北エリアまちづくりの推進

第４章「第 20 回アジア競技大会の開催とリニア中央新幹線の開業」

- 「１　第 20 回アジア競技大会を契機としたまちづくりビジョン」-「(2)基本目標」
- 「基本目標４大会で、活用した都市基盤、先端技術、危機管理体制などが、大会モデルとして未来に引き継がれることで、絶え間なくイノベーションし続ける、持続可能な都市の実現」

新しいモデルとしての選手村の構築と大会後のまちづくり

成熟都市である本市で開催するアジア競技大会の選手村の整備・運営の新たなモデルを構築するとともに、この機会を契機に、名古屋競馬場跡地や周辺地区のにぎわいと新たな地域ブランドの形成に向け、社会の変化に柔軟に対応し、災害に強いしなやかなまちづくりを進めます。

第５章「めざす都市像の実現に向けた施策・事業」

- 「施策 26 良好な都市基盤が整った生活しやすい市街地を形成します」

港北エリアでは、名古屋競馬場跡地におけるアジア競技大会選手村整備を契機とするまちづくりに取り組み、地域の課題解決、魅力向上に資する新たな価値・機能を創出する必要があります。

事業名	事業概要	現況	計画目標
港北エリアにおけるまちづくりの推進	名古屋競馬場跡地におけるアジア競技大会選手村の整備とその後の利用を見据え、「港北エリアのまちづくり将来ビジョン」を取りまとめ、まちづくりを推進	港北エリアにおけるまちづくりの方向性の検討	「港北エリアのまちづくり将来ビジョン」の策定 「港北エリアのまちづくり将来ビジョン」に基づく取り組みの推進

（２）名古屋市都市計画マスタープラン２０３０（策定：令和２年度）

本市では、平成 23（2011）年 12 月に都市計画マスタープランを策定し、集約連携型都市構造の実現を掲げました。都市計画マスタープラン２０３０では、さらに具体的なビジョンとして、都心から郊外まで、市内の各ゾーンの特性を活かした将来イメージを打ち出し、多様性や包摂性を備えた将来都市構造を掲げることで、具体的な都市空間のプラットフォームとしての役割を果たすものとして取りまとめています。

将来都市構造や各ゾーンの将来イメージを実現するために、特に重点的にまちづくりを展開する地域として、都心部、金山、熱田、港北エリア、ガーデンふ頭、金城ふ頭、鳴海、志段味が示されています。その中でも、港北エリアは、名古屋城を核とした魅力軸及び水辺連携軸に位置しており、さらなる交流の活性化をはかるため、魅力向上や資源間の連携が必要な地域の一つとされています。

【重点的にまちづくりを展開する地域】

港北エリア

アジア競技大会の選手村整備を契機に、中川運河、公園、交通基盤などの地域資源を際立たせることにより、にぎわいと新たな地域ブランドの形成に向けたまちづくりを推進します。

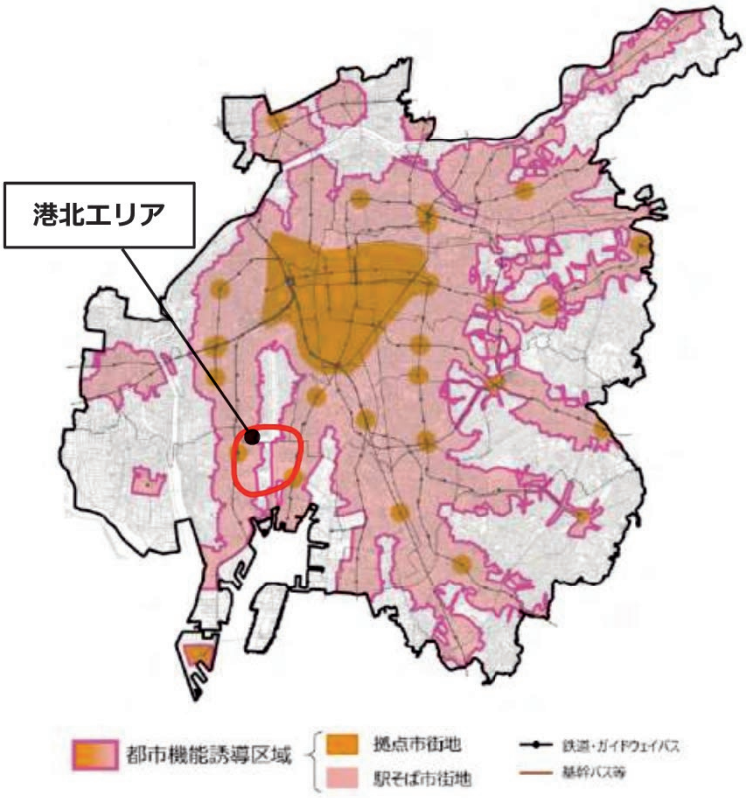
- ●名古屋競馬場跡地での質の高い民間開発による地域イメージの転換
- ●交通利便性・回遊性の向上、水・緑と共生した生活環境の形成
- ●次世代産業の振興、世界に開かれたビジネス環境の形成
- ●職住近接によるゆとりある生活の実現、地域ぐるみの防災対策の実践

（3）なごや集約連携型まちづくりプラン（策定：平成 29 年度）

本市では、都市計画マスタープランにおいて集約連携型都市構造をめざすべき都市構造に位置づけ、取り組みをすすめてきました。また、国においてもコンパクトシティ・プラス・ネットワークの考え方に基づいて都市機能と居住の立地誘導をはかる立地適正化計画制度が創設されました。

このような状況をふまえ、本市における集約連携型都市構造の実現に向けた取り組みを加速化するために、都市再生特別措置法に基づく立地適正化計画として、「なごや集約連携型まちづくりプラン」を取りまとめました。

都市再生特別措置法に基づく都市機能誘導区域は下図のとおり設定し、港北エリアは拠点市街地及び駅そば市街地を含んだ区域となっています。



【都市機能誘導区域】

都市機能誘導の考え方

●拠点市街地（地域拠点）

・周辺地域の市民利用が想定される地域の拠点施設の重点的な誘導

・まちの魅力や利便性の向上に資する日常生活施設の充実

●駅そば市街地

・周辺地域の市民利用が想定される地域の拠点施設の誘導

・まちの魅力や利便性の向上に資する日常生活施設の充実

（4）中川運河再生計画（策定：平成 24 年度／名古屋市・名古屋港管理組合）

中川運河の歴史と役割を尊重しつつ、新たに求められる価値や果たすべき役割を踏まえ、概ね 20 年先を見据えた再生構想と、概ね 10 年間の取り組み内容を示した計画です。港北エリアは、モノづくり産業ゾーン、レクリエーションゾーンに位置づけられています。

モノづくり産業ゾーンの再生イメージ

レクリエーションゾーンの再生イメージ

■モノづくり産業ゾーン

○港湾・物流軸として名古屋の産業・経済を支えてきた運河の歴史を継承しながら、モノづくりの未来を支える産業との融合を図ることにより、産業空間としての価値が一層高まるような「モノづくりを支えるキャナルストリート」の形成をめざします。

【再生イメージ】

・沿岸用地では、再開発用地を活用することにより、従来の港湾・物流産業に加え、モノづくりの未来を支える産業の立地が進んでいます。

・緑地・プロムナードの設置、沿岸用地内の緑化の推進等により、魅力的で働きやすい環境となっています。

■レクリエーションゾーン

○名古屋港漕艇センターを中心とする水上スポーツのさらなる活性化や、にぎわいのある名古屋港ガーデンふ頭との連携、周辺の緑地・公園との回遊性向上などにより、緑豊かな水辺で人びとが気軽に交流を楽しめるような「水と緑のレクリエーションフィールド」の形成をめざします。

【再生イメージ】

・プロムナードの設置によって、周辺の公園・緑地との回遊性が高まり、多くの市民が気軽にレクリエーションを楽しんでいます。

・水上スポーツの関連施設の拡充や活動エリアの拡大が図られ、ますます水上スポーツが盛んに行われています。

・中川口通船門等の耐震性・耐波性の強化や、老朽化した中川口ポンプ所の更新など、運河の防災機能の強化が図られています。

（5）2026 アジア競技大会 NAGOYA ビジョン（策定：令和元年度）

本ビジョンは、アジア競技大会終了後の 2030 年頃を見据え、大会の開催を契機として本市がめざすまちの姿を明らかにするために策定しました。選手村の整備及び跡地を含めた港北エリアのまちづくりの推進が掲げられています。

■新しいモデルとしての選手村の構築と大会後のまちづくり

成熟都市である本市で開催するアジア競技大会の選手村の整備・運営の新たなモデルを構築するとともに、この機会を契機に、名古屋競馬場跡地や周辺地区のにぎわいと新たな地域ブランドの形成に向け、社会の変化に柔軟に対応し、災害に強いしなやかなまちづくりを進めます。

■主な取組み

選手村の整備及び跡地を含めた港北エリアのまちづくりの推進

（第 20 回アジア競技大会選手村の整備及び大会後の跡地のまちづくりの推進、港北エリアにおけるまちづくりの推進）

・選手、役員が安心・安全・快適に滞在できる生活環境を提供するため、名古屋競馬場跡地に整備するメイン選手村の計画、整備を検討・推進します。

・また、将来を見据えたまちづくりが重要であるため、跡地や公園など既存のインフラの活用を含めた港北エリアのあり方について検討・推進します。

選手村予定地及び周辺の概況

【第18回アジア競技大会の選手村】

選手団の入村式

選手村のダイニングホール

（６）第 20 回アジア競技大会選手村後利用基本構想（策定：令和元年度）

令和８（2026）年に、愛知県及び名古屋市において第 20 回アジア競技大会を開催することが決定され、名古屋競馬場の敷地をアジア競技大会のメイン選手村として利用することが予定されています。

メイン選手村の計画・整備の検討は、大会時の選手村を計画するだけでなく、大会後もレガシー（遺産）として有効活用されるよう、大会を契機としたまちづくりも合わせて進めることが重要であり、大会後のまちづくりという各段階を踏まえ長期的な視点に立ち事業を進めていく必要があります。

本構想は、このような背景を踏まえ、アジア競技大会開催後の令和 12（2030）年頃を見据え、将来のまちづくりの方向性を示すために、愛知県及び名古屋市が策定するものです。

■開発コンセプト

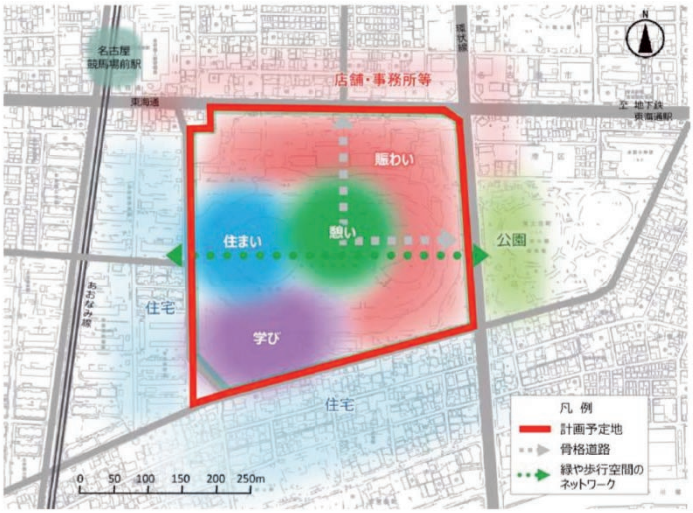
安心と交流を生み出す次世代拠点
～　新しいライフスタイルがはじまる、スマートビレッジ　～

■目指すべきまちの姿（５つの夢）

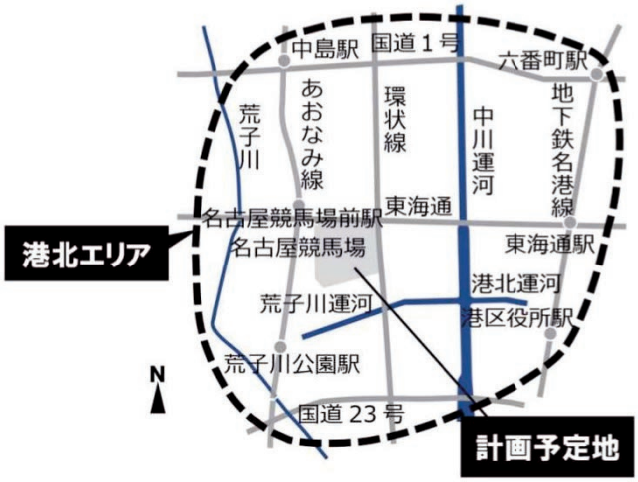
- GO ACTIVE　スポーツにより健康に暮らし、元気になるまち
- GO ASIA　多様な人々が国内外から集い、グローバルに成長できるまち
- GO GREEN　憩いやつどいの場があり、安全・安心でエコな暮らしが実現するまち
- GO FUN　にぎわいがうまれ都市の魅力が高まり、国内外に誇れる楽しいまち
- GO FUTURE　未来を身近に感じ、イノベーションが創出されるまち

■事業化に向けて

- 計画予定地周辺の幹線道路、あおなみ線、中川運河などの地域資源を有する港北エリアのまちづくりにおけるハード・ソフト面の取組と連携し、地域の課題解決、魅力向上に資する新たな価値・機能の創出を図ります。



土地利用イメージ



港北エリア

（７）SDGｓ（持続可能な開発目標）

平成 27（2015）年９月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に記載された、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のための国際目標であるＳＤＧｓの達成に向けた取り組みが国レベルで進行しています。

また本市は、令和元（2019）年７月、ＳＤＧｓの理念に沿った基本的・総合的取組を推進しようとする都市の中から、特に、経済・社会・環境の三側面における新しい価値創出を通して持続可能な開発を実現するポテンシャルが高い都市として、国から「ＳＤＧｓ未来都市」に選定されました。

【持続可能な開発目標(SDGs)】

（8）グリーンインフラ

近年、都市が抱える様々な課題を解決するため、ハード・ソフト両面において、自然環境の持つ多様な機能を、持続可能で魅力的なまちづくりに活用する“グリーンインフラ”の考え方が注目されています。

グリーンインフラの“グリーン”は、緑、植物という意味のみならず、緑・水・土・生物などの自然環境が持つ自律的回復力をはじめとする多面的な効果を積極的に活かして、環境と共生した基盤整備や土地利用などを進めるという意味を持ち、“インフラ”は、従来の道路や橋などの構造物だけを指すのではなく、その地域社会の活動を下支えするソフトの取り組みも含まれます。

例えば、屋上緑化や壁面緑化など建築物の緑化でグリーンインフラの取り組みを推進することにより、魅力的な緑などの景観をつくり、市民のみなさんの健康や幸福度、生産性及び創造性の向上につながることが期待されます。

また、グリーンインフラは、ヒートアイランド現象対策や雨水流出抑制の点でも有効に機能します。

さらに、官民が連携して緑豊かな都市を形成することにより、クリエイティブな人材、企業及び投資が呼び込まれ、都市のエリア価値が向上する効果も期待されます。これからは、このような緑などが有するグリーンインフラとしての多面的な効果を発揮していくことが必要だと考えています。

グローバルゲート（ささしまライブ24地区）

出典）横浜市資料

【グリーンインフラの事例】

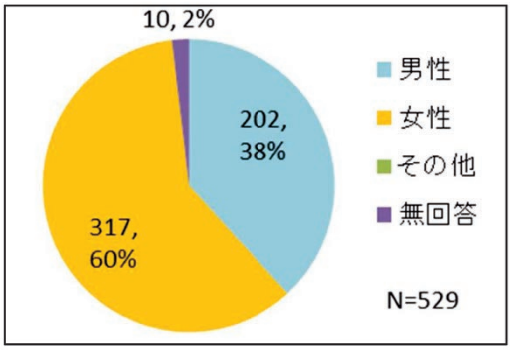
3　アンケート調査結果

本アンケートは、港北エリアまちづくり将来展望の策定に向けた検討を行うため、地域住民や来訪者の方から意見を伺い、検討の参考にするため調査を実施しました。

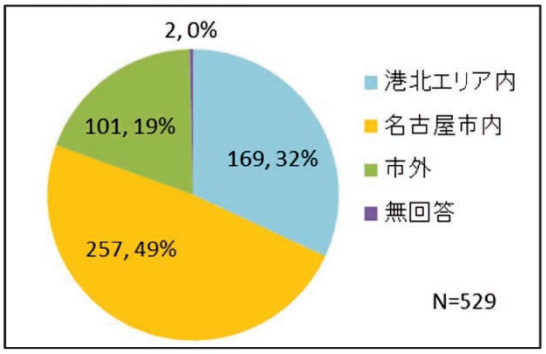
【アンケート調査の実施概要】

実 施 日	休日：令和元年 11 月 17 日（日）9:00～19:00	回答数：289 人
	平日：令和元年 11 月 19 日（火）9:00～19:00	回答数：240 人
調査対象	地域住民及び来訪者	合　計：529 人
実施場所	鉄道駅：地下鉄名港線 港区役所駅、あおなみ線 名古屋競馬場前駅、荒子川公園駅	
	商業施設：ららぽーと名古屋みなとアクルス、イオンモール名古屋みなと ピアゴ ラ フーズコア正保店、タチヤみなと店	
実施方法	アンケート調査票を用いた街頭聞き取りアンケート 付箋紙を用いたボードアンケート	

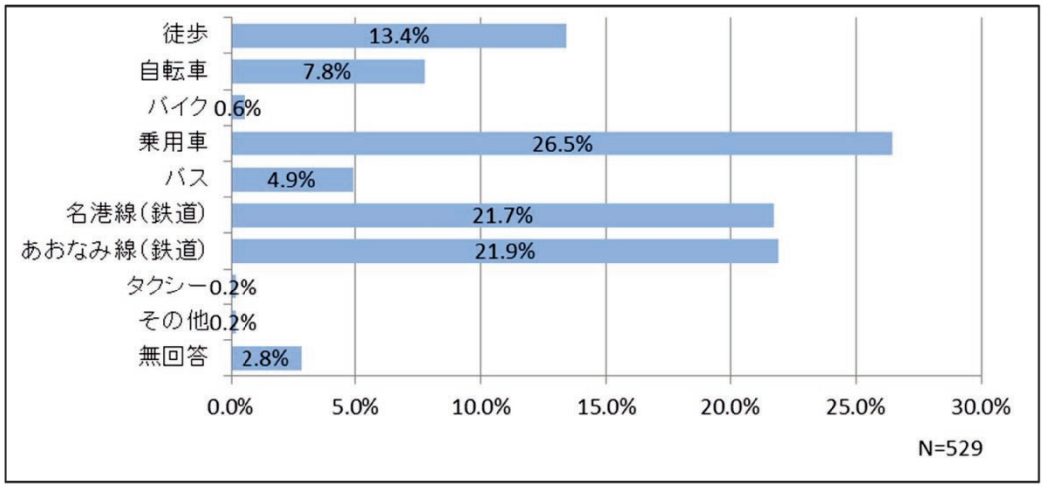
■性別



■居住地・就業地



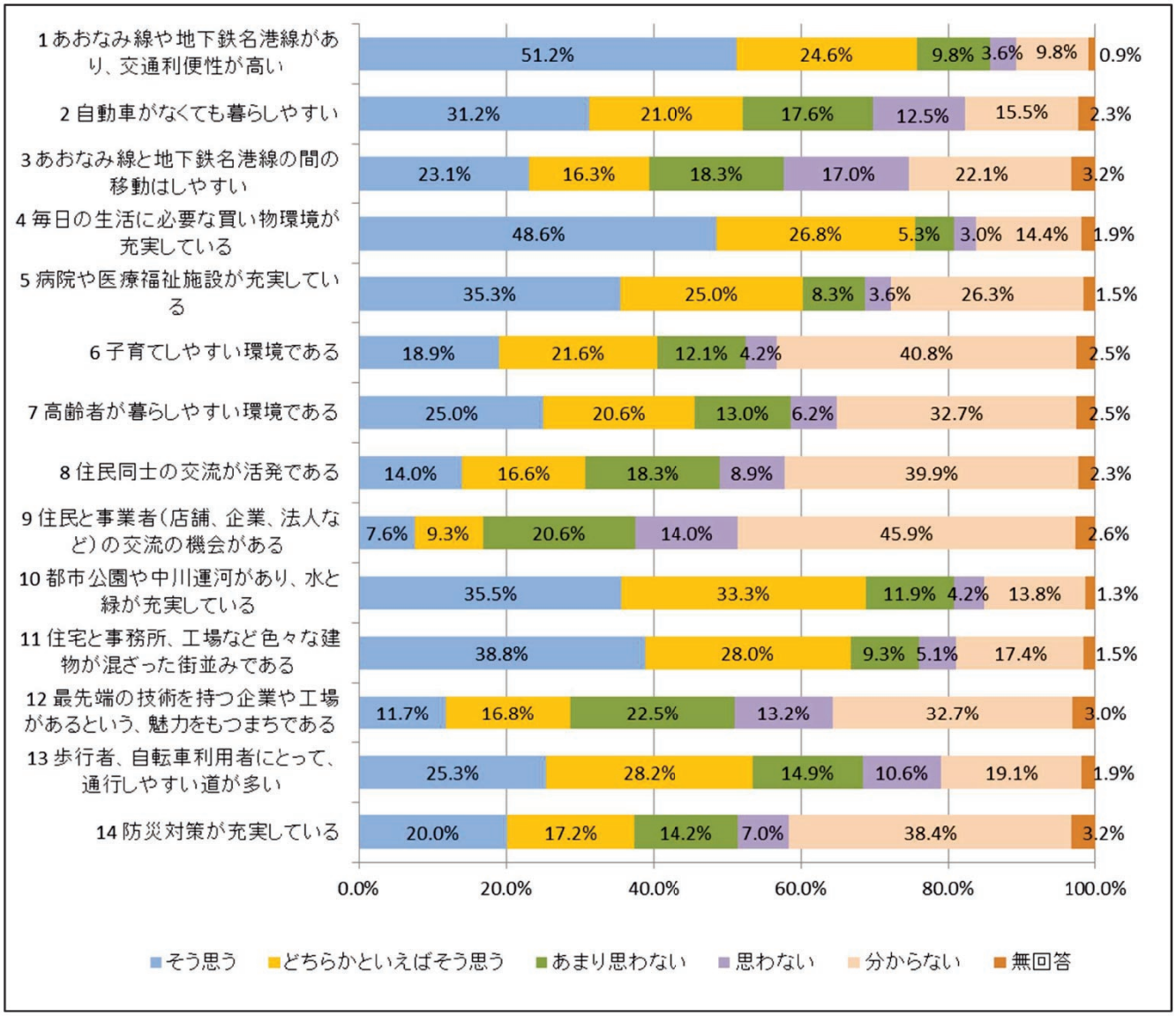
■主な交通手段



■港北エリアの現状について

・交通利便性の高さ、買い物施設や医療福祉施設の充実、水と緑の充実、住工混在の街並みについては、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が多くなっています。

・一方、子育てしやすい環境、住民同士の交流、住民と事業者との交流の機会、最先端技術を持つ企業等の立地については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が少なくなっています。



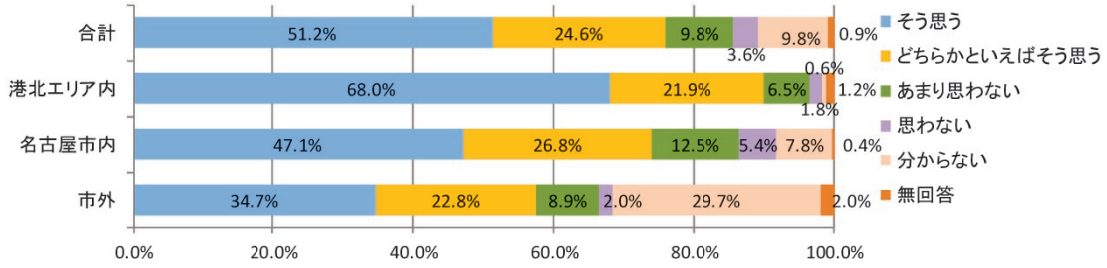
（交通関連のアンケート項目に対する回答者の居住地・就業地との関連性）

・前ページの港北エリアの現状についての回答のうち、交通に関係する回答について居住地・就業地別の分析をしました。

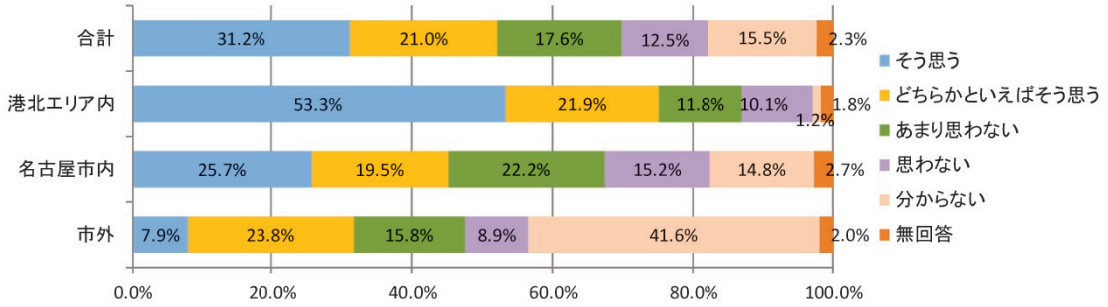
・交通に関係する回答の全体的に、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が、港北エリア内は多く、エリア外の名古屋市内は少ない傾向がみらます。

・市外は、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が少なく、「分からない」が多くなっています。

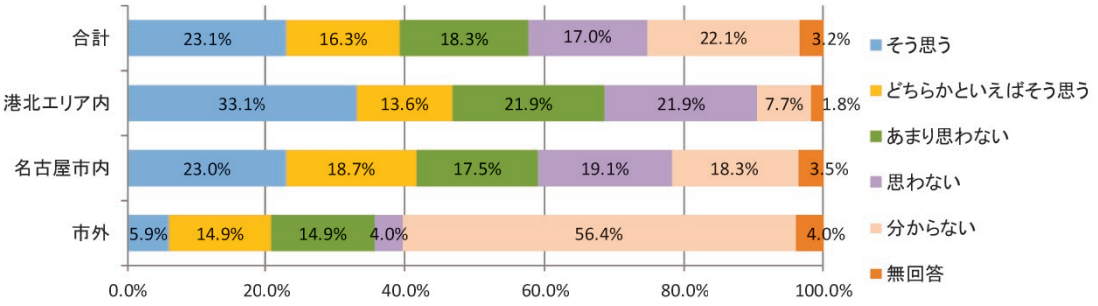
1．あおなみ線や地下鉄名港線があり、交通利便性は高い



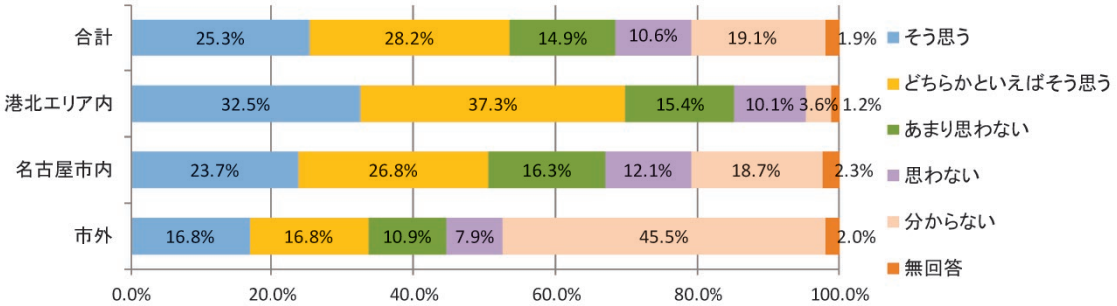
2．自動車がなくても暮らしやすい



3．あおなみ線と地下鉄名港線の間の移動はしやすい



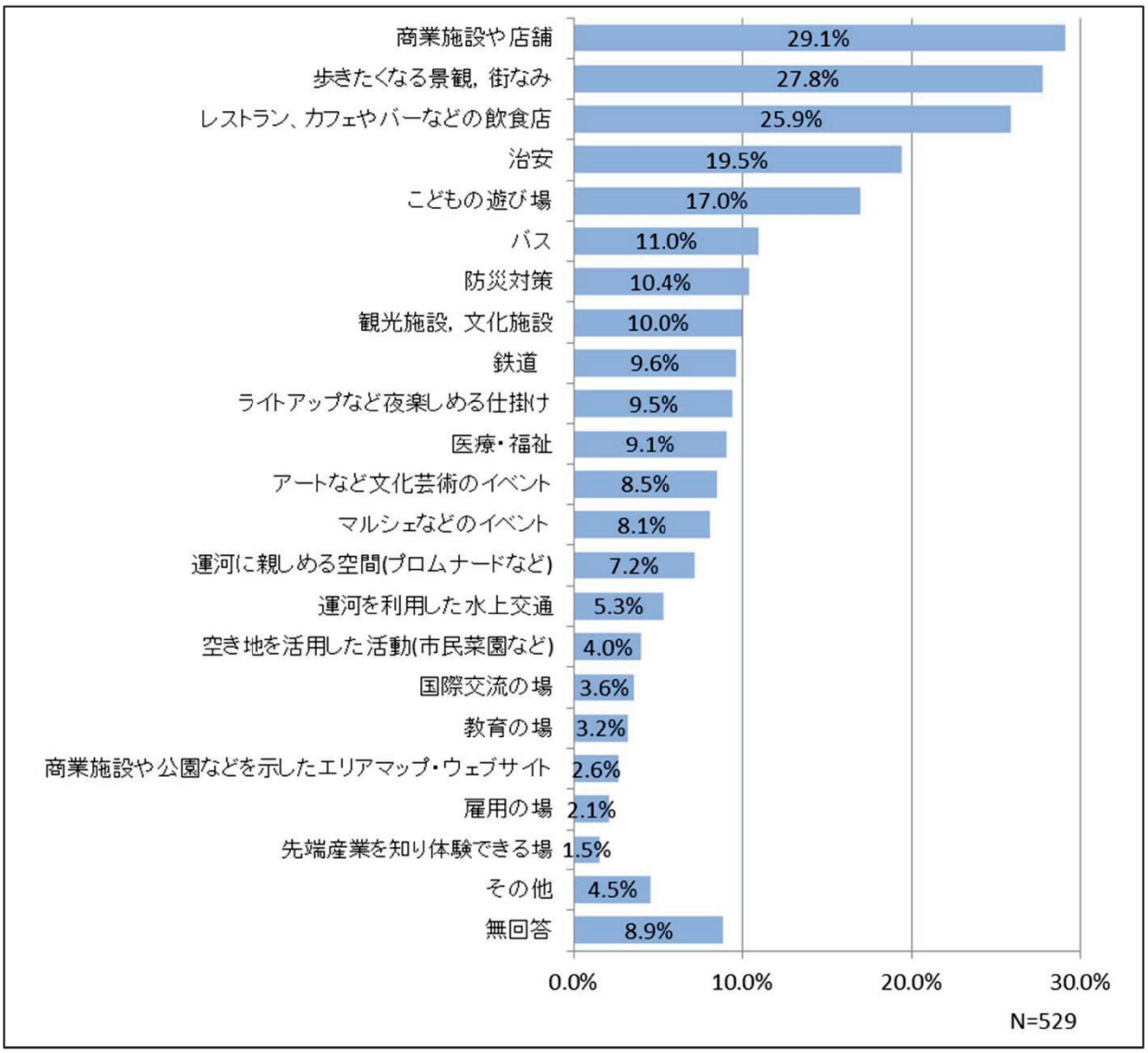
１３．歩行者、自転車利用者にとって、通行しやすい道が多い



■今後、港北エリアで暮らし、または来街するために充実してほしいことについて

（３つまで回答可）

・最も回答数が多かった項目は「商業施設や店舗」29.1%、次いで「歩きたくなる景観や街なみ」27.8%、「レストラン、カフェやバーなどの飲食店」25.9%となっています。



4　シンポジウム開催状況

本シンポジウムは、港北エリアの魅力や課題を聴取するとともに、アジア競技大会を契機とした中川運河や名古屋競馬場周辺の新たな魅力・にぎわいづくりについて考えることを目的として実施しました。

【シンポジウム開催の概要】

名　称	港北エリアまちづくりシンポジウム		
日　時	令和２年（2020）１月 26 日（日）13:30～15:30	参加者数	約 70 人
会　場	ららぽーと名古屋みなとアクルス　３階ららスタジオ		
登壇者 （敬称略）	・鈴木明子（プロフィギアスケーター、元オリンピック日本代表、邦和スポーツランド所属） ・渡邉一晃（港区小中学校ＰＴＡ協議会会長、中川小学校 PTA 会長、誓成寺誓成保育園園長） ・松本幸正（名城大学理工学部社会基盤デザイン工学科　教授） ・坂本敏彦（名古屋市住宅都市局都市整備部まちづくり企画課　課長） 司会：福田ちづる（「さらさらサラダ」 キャスター）		
プログラム	①あいさつ・趣旨説明、②登壇者の紹介、③港北エリアの魅力紹介 ④港北エリアの未来の姿、⑤港北エリアのまちづくりについて		

【シンポジウムにおける主な意見】

■港北エリアの魅力紹介

【渡邉一晃氏】
・港北エリアの魅力は毎年秋に行われている「稲荷社の例大祭」がある。３基の山車神楽が、この地域に伝わる神楽太鼓（尾張新次郎太鼓）を叩き、町内を巡行する。山車神楽は大人が引くが、子供獅子もある。普段静かな町内であるが、地域全体が盛り上がる。

【鈴木明子氏】
・祭りを通じて子供からお年寄りまで地域が繋がっているのを目の当たりにする。祭りが残り、続いていくことが港北エリアのまちづくりにも繋がると思う。
・ここ数年でららぽーと周辺の人の流れが大きく変わった。ららぽーとができ、家族連れが増え、明るくなった。

【坂本敏彦】
・港北エリアの最大の魅力は水辺である。名古屋は横浜、神戸といった港町だけではなく、東京や他の街と比べてもウォーターフロントの魅力が乏しい。ガーデンふ頭の水族館、金城ふ頭のレゴランドはあるが、もっと人々が暮らしているところの近くにウォーターフロントの街をつくっていきたい。中川運河、水辺に面した魅力的な空間をこのエリアにつくりたい。

【松本幸正氏】
・港北エリアは運河、緑が資源である。これを活かしたまちづくりを進めて欲しい。名古屋市では現在、アジア競技大会選手村後利用基本構想を策定中であり、大会後もレガシーとして有効活用されるようまちづくりも併せて検討している。これを契機に港北エリア全体を元気にしてほしい。都市の繁栄には、本物の資源が必要。祭りもそのひとつ。中小のものづくり企業もたくさんある。それらを活かした港北エリアの姿が描けるはず。

■港北エリアの未来の姿

【渡邉一晃氏】
・地域住民にとって中川運河は、身近すぎて魅力としての認識が低いが、今後は他には無い魅力として活かしていきたいと思う。
・中川運河を使って釣りやボート、グランピングなどの様々な自然体験ができると地域住民だけでなく、地域外からも足を運んでもらえるきっかけになると思う。

【鈴木明子氏】
・カナダのトロントはスポーツの参加意識が強い。水辺や公園など積極的に体を動かせる場所が多くある。週末も家族で体を動かす人が多い。スポーツをイベントとして楽しめる環境、写真を撮りたくなるような外に出て集まれる場所がある。
・バンクーバーも同じく、町中が一体となってスポーツチームを応援している。スポーツという切り口を通して海外の人達との交流が図れるのではないかと感じた。バンクーバーの選手村は跡地をそのまま街として利用する計画で、マンションや川、今後商業施設になるような箇所もあった。大会が終わったら取り壊す簡易的なものではなく、継続的に利用できるものができると良い。

【坂本敏彦】
・東海通は名古屋の東西軸であり、新技術を入れて使い易くできないか考えている。このエリアの魅力資源を繋いでいくような回遊性をつくっていけるとよい。
・水辺の資源をどう活かして新しいイメージをつくっていけるか。中川運河で行っているキャナルアート、水辺を活用したアートの取り組みも行うと新しい魅力になる。

【松本幸正氏】
・今後この地区とって大事なことは、運河側を向くこと。ロンドンのテムズ川東岸は廃れていたが、人の流れを変えることで賑わいを生んだ。オランダのデルフトでは運河に船を浮かべてレストランとして食事を楽しんでいる。水辺の夜の景色をつくることも大事。
・港北の将来を考えた時、10 年 20 年先のことを見据えることが大切。

■港北エリアのまちづくりについて

【渡邉一晃氏】
・地元の希望、要望の声をあげていくことが重要だと思う。今の子どもたちが成人になり外に出たときに地元のまちを自慢できるように。一度外に出ても地元に帰って、地元に住みたい、家庭を持ちたい、そんな希望を今の子ども達に与えてあげられれば。

【鈴木明子氏】
・家庭だけでなく、地域で人は育つものだと思う。変わってきているこのまちが、勝手に変わっていくのを眺めているのではなく、今のみなさんの意見を言うことが大事。自分のまちに興味を持って、好きになって欲しい、自慢できるまちにして欲しい。

【坂本敏彦】
・このエリアには名古屋になかなか無い空間がある、水辺や緑。特に中川運河は幅が 90m あり、他の運河と比べてかなり広い。そこを活かした街並みで、魅力的な空間ができる。栄や名駅ではなく、ゆとりをもって潤いを持って暮らせる場所として、水辺、公園、スポーツ施設、商業施設もあるこのエリア、名古屋の中には無かったまちが生まれてくると思う。

【松本幸正氏】
・この地区は緑も多く、荒子川公園でランニング、中川運河沿いを散歩など各地で健康活動ができる、これを最大限活かさないといけない。
・まちづくりに大事なのは、何より地元にある本物の資源を活用する、これをゼロにしては全く無意味。この地区にある資源、水、緑、町工場、祭り、歴史、これらを活かすこと。アジア大会選手村を契機として新たにつくっていくものもあって良い。その際には、行政ができること、住民ができること、外の住民、外国人ができることなどの役割分担が必要である。
・インフラ整備は行政、使い方はみなさんで、外から民間企業にも来てもらって、一緒につくっていく姿勢があって良い。

5　有識者懇談会について

港北エリアにおけるまちづくりの検討・推進について、多岐広範にわたる意見を聴取することを目的として「港北エリアまちづくり有識者懇談会」（以下「懇談会」という。）を開催しました。

懇談会では、港北エリアまちづくり将来展望の策定に向けて検討しました。

【港北エリアまちづくり有識者懇談会（構成員名簿）】

（有識者五十音順／敬称略）

	氏名	所属等
学識経験者	内田　俊宏	中京大学経済学部　客員教授
	小松　　尚	名古屋大学大学院環境学研究科　准教授
	中村　一樹	名城大学理工学部社会基盤デザイン工学科　准教授
	松本　幸正（座長）	名城大学理工学部社会基盤デザイン工学科　教授
行　政	坂本　敏彦	名古屋市住宅都市局都市整備部まちづくり企画課長

事務局：名古屋市住宅都市局都市整備部まちづくり企画課

【港北エリアまちづくり有識者懇談会の概要】

	日時	主な議題
第１回	令和元年９月30日（月）	○港北エリアの現状と課題、基本理念、基本方針、まちづくりの方向性 ○まちづくりプロジェクトの検討 ○市民意向の把握 ○その他全般
第２回	令和元年12月27日（金）	○スケジュール ○アンケート結果概要 ○シンポジウム予定 ○港北エリアまちづくり将来ビジョン（素案）
第３回	令和２年２月14日（金）	○スケジュール ○シンポジウム結果概要 ○港北エリアまちづくり将来ビジョン（案）

【参考】有識者懇談会（第１回～第３回）における各構成員からの主な意見（その他参考意見）

●みなとアクルスと土古公園の回遊性が出ると港全体のグランドイメージが変わる。

●中川運河の東海通といろは橋の間は距離が離れているが、回遊性を確保するため、新たに橋がかけられないか。人道橋でも良いので検討できると良い。もしくは、広い橋をかけて上部を公園として商業立地を図るなども考えられる。

●最先端の技術を活用したスマートシティの発想で、治安や安全対策に寄与できると良い。

●声かけが防犯においても地域コミュニティでも大切である。安心に暮らせる、店舗の明りで安全になるなど、ビジョンに反映できると良い。

●運河沿いのプロムナードを強調すべきである。

●中川運河は水位一定であり、それを活かして船や浮遊建築物などの検討ができないか。

●水上交通がささしまで繋がっているが、伏見、栄まで繋がると良い。車でなく水上交通でのスローライフが考えられる。

●最先端工場とのイノベーションリングという考え方を反映できると良い。

●現在あるものを維持したまま、スマート化するという趣旨として、基本理念等に下町感というキーワードがあっても良い。下町は、交流という観点においては重要であり、それらをリンクすることで、工場等が持っているポテンシャルを繋ぎ、新しい交流を生むという流れが大切である。

●古民家再生や商店街の空き店舗のように、空き工場をリノベーションして、新しい人が入ってくる受け皿にできないか。更地にして建替えるより、既存建物を使った方が地域の特色を出すことができる。また、工場は大空間なので、商業・オフィスなどの複合用途への転換や屋根のある公園として捉えれば遊び場やスポーツ施設への転用も可能である。

●廃工場や廃倉庫をリノベーションすることで新しい産業を導入し、産業の中身を展開していくことでイノベーションできれば良い。

●交通というイメージよりも環境・エネルギーの視点によるまちづくりビジョンが良い。

●環境・エネルギーの分野におけるスマートシティという視点は東邦ガスも立地しているので検討できるのではないか。

●民間事業は、商業も工業も、デベロッパーなど様々な分野の企業がいるが、最も重要なのは地元の企業や運河沿いの工場や物流系の企業の関わり方である。

●運河沿いの企業の協力は重要であり、セットバックなどの協力企業には税制優遇などの規制緩和や補助金などの検討が必要ではないか。

●名古屋競馬場跡地の新しいモビリティの試みを港北エリア全体に展開できると良い。名古屋競馬場跡地開発との連携になると思うが、今後、道路の使い方が変わる中で、東海通でも歩くことができるエリア、新しいモビリティの導入や専用レーンの可能性もあるのではないか。

●道路空間と公共空間の活用が重要である。道路は車の通行のためだけに使うのではなく、そこを経済活動としても使えると良い。

以上

6　庁内検討会について

名古屋競馬場跡地におけるアジア大会選手村整備を契機とした、港北エリアでの地域の課題解決、魅力向上に資する新たな価値・機能の創出や、にぎわいと新たな地域ブランドの形成に向けた具体的な施策・事業の案を検討するため、港北エリアまちづくりプロジェクト庁内検討会を設置しました。

【港北エリアまちづくりプロジェクト庁内検討会（庁内関係者）】

名古屋市住宅都市局都市整備部長（会長）
名古屋市住宅都市局まちづくり企画課長
名古屋市総務局総合調整部アジア競技大会推進室長
名古屋市住宅都市局主幹（企画調整）
名古屋市住宅都市局都市計画部交通企画課長
名古屋市住宅都市局都市計画部交通施設管理課長
名古屋市住宅都市局都市整備部主幹（まちづくりに係る特命事項の処理担当）
名古屋市住宅都市局都市整備部名港開発振興課長
名古屋市緑政土木局主幹（企画）
名古屋市緑政土木局河川部河川計画課長
名古屋市緑政土木局緑地部緑地利活用課長
名古屋市緑政土木局緑地部緑地事業課長
名古屋市交通局営業本部企画財務部主幹（企画調整・外郭団体）
名古屋市交通局営業本部自動車部主幹（路線計画）
名古屋市上下水道局技術本部計画部主幹（雨水対策の総合調整）

【港北エリアまちづくりプロジェクト庁内検討会の概要】

	日時	主な議題
令和元年度 第１回	令和元年８月２日（金）	○港北エリアのまちづくりについて ○今後の進め方について
第２回	令和元年10月23日（水）	○第１回有識者懇談会について（報告） ○港北エリアまちづくりプロジェクトについて ○今後の進め方について
第３回	令和元年12月20日（金）	○今後の進め方について　　○市民意向把握について ○まちづくりプロジェクトについて ○港北エリアまちづくり将来ビジョン（素案）について
第４回	令和２年２月12日（水）	○今後の進め方について　　○市民意向把握について ○港北エリアまちづくり将来ビジョン（案）について
令和２年度 第１回	令和２年７月２日（木）	○港北エリアまちづくりについて ○今後の進め方について ○港北エリアまちづくり将来ビジョン（案）について

港北エリアのまちづくり

名古屋市住宅都市局都市整備部まちづくり企画課

〒460-8508　名古屋市中区三の丸三丁目１番１号
電話番号：052-972-2726　FAX：052-972-4162
電子メール：a2726@jutakutoshi.city.nagoya.lg.jp